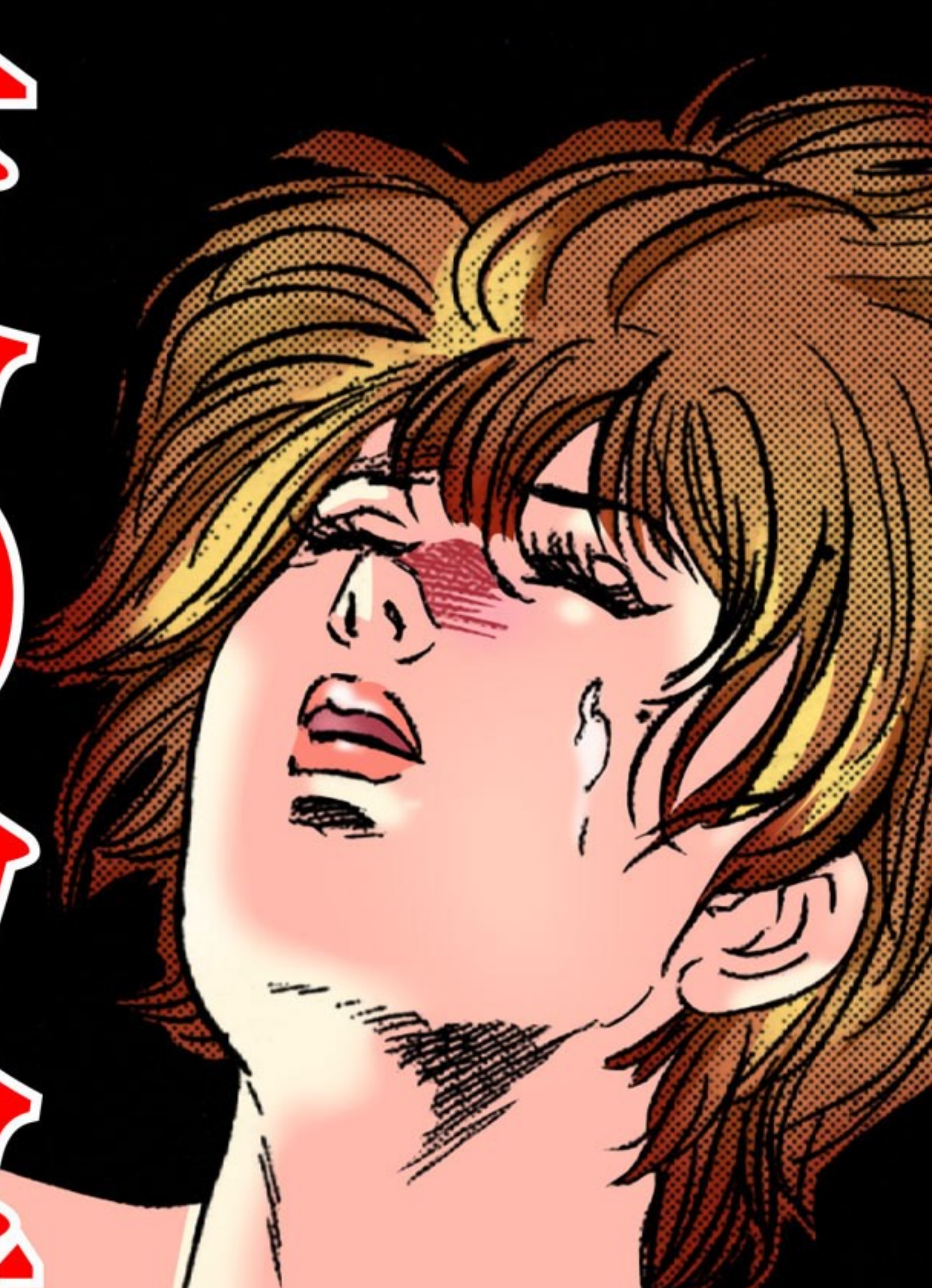


# 夜の 女の 禁球



MATSUHISA

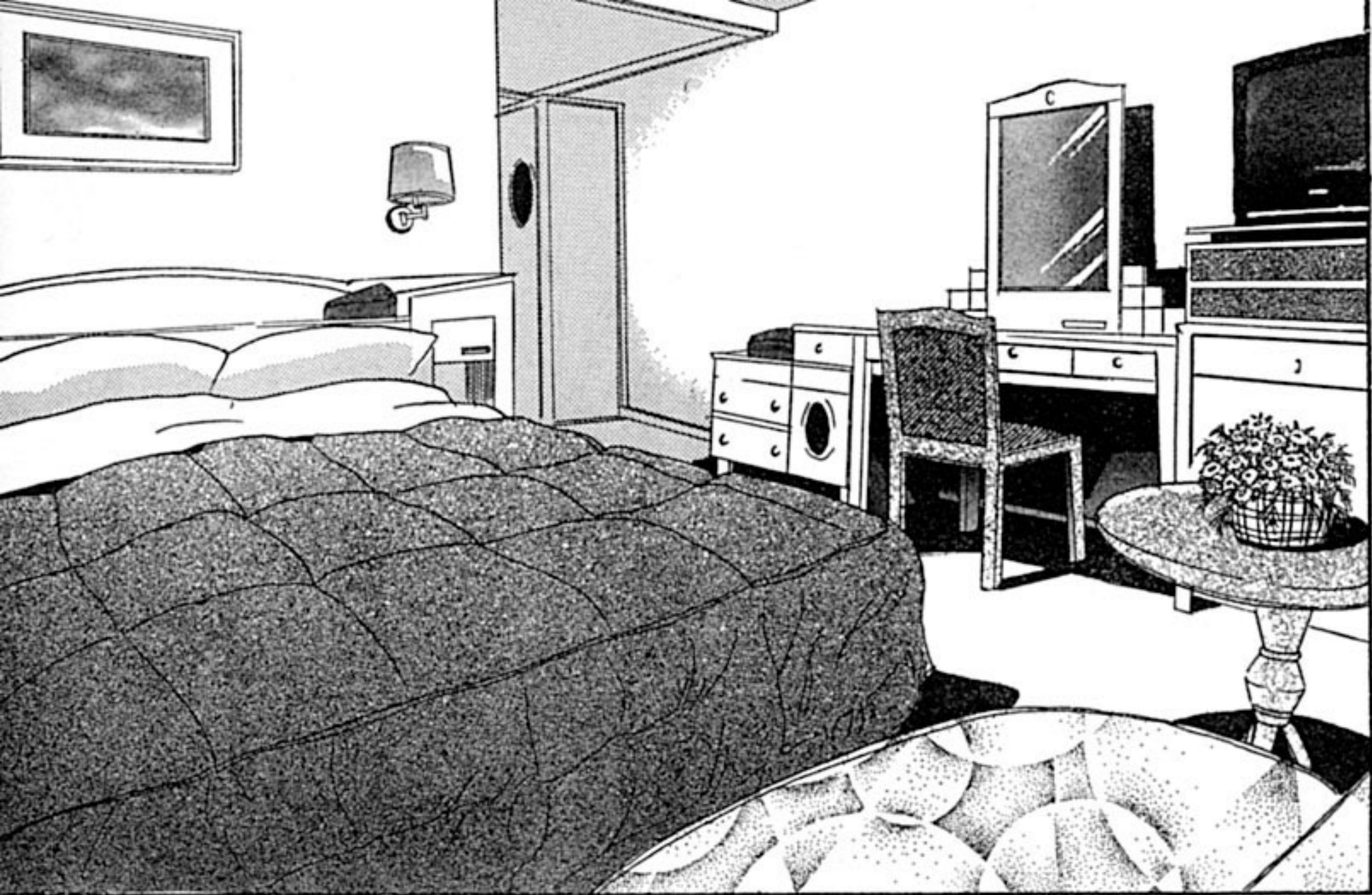
AKIRA

松久

晶

SHIHO

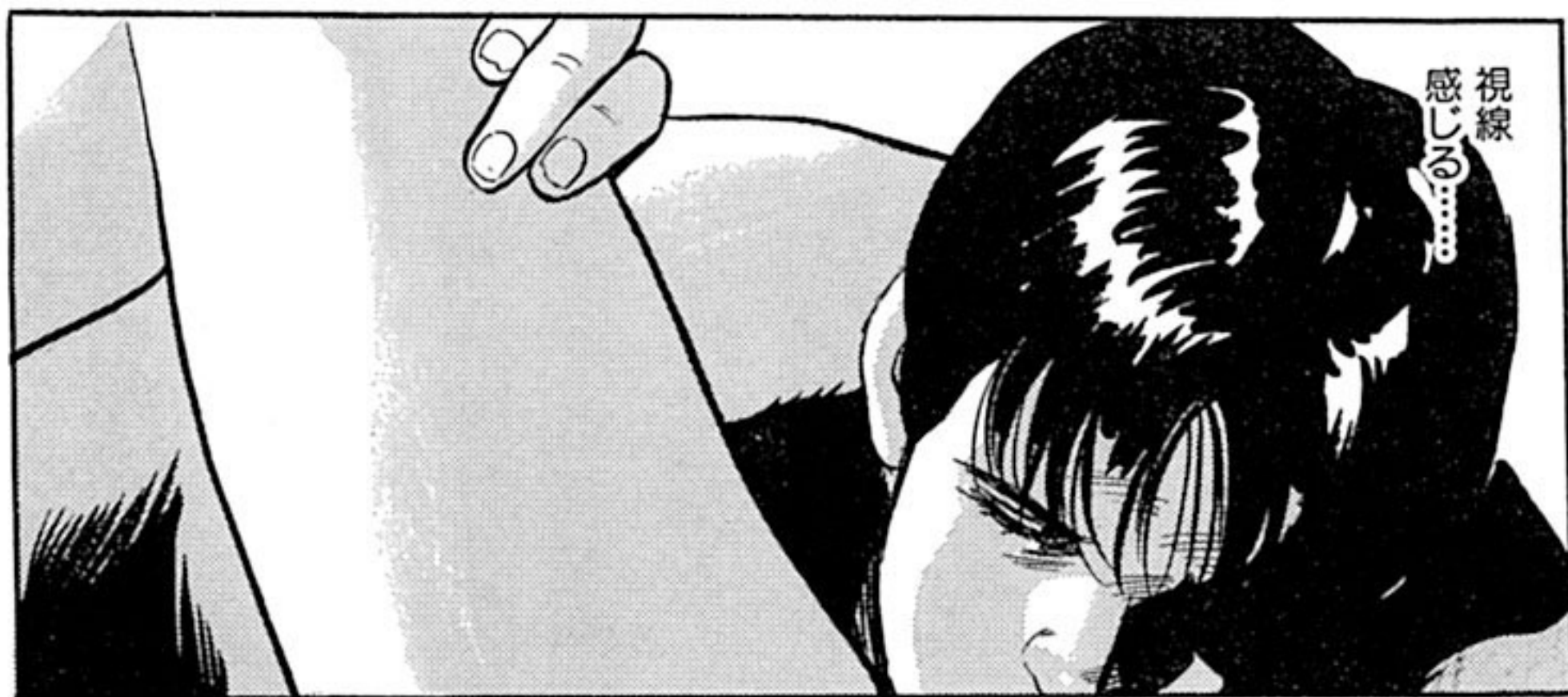
原作 / 詩步




ガンバルのよ  
かな  
華奈……!!

これからが  
勝負  
なんだから……!!









いつもなら  
薄明かりの中で  
私の羞恥に急かされるだけの  
篤志の愛撫なのに  
今日は違う……

明るい中で  
篤志の視線を感じながら……  
私も……




あっ……



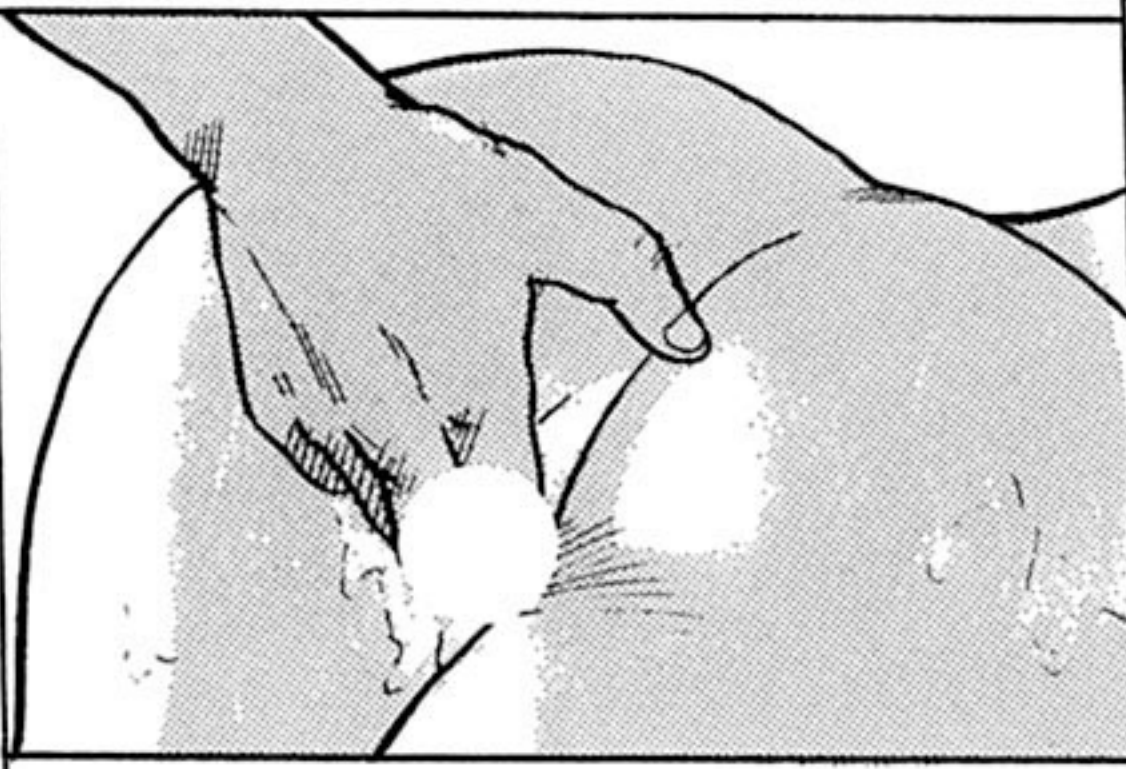
気持ちいいって  
ココも……

鳴いてるよ

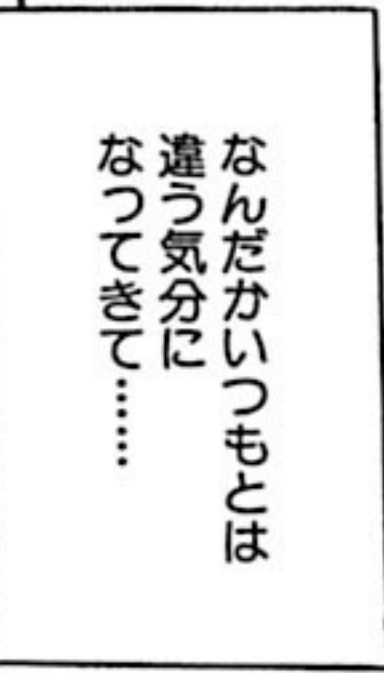
いじわる……



指は……  
2本のほうが  
いいかな……?



次々と飛び出す  
篤志らしくない  
言葉を聞きながら  
私も……



なんだかいつもとは  
違う気分に  
なってきた……

思わず腰が  
揺れて――

今度は  
僕の番だ

篤志が  
だんだん  
ノツてきた……!?

そう……  
さつきよりも  
もっと深く……

喉の奥まで  
入れるんだ!

1度イッたとは  
思えないくらいに

元気に……  
力強く  
たぎってる……!?



ワギナと同時に  
擦りつける……

篤志あつしの指が  
不意に  
アヌスに入り



あっ……!?



……気持ちいい!!

あ……ん!



……そんな……

へエ……ほんとに  
皮一枚なんだ



主導権を  
握った篤志あつしが

“王様”に  
変身した……!?



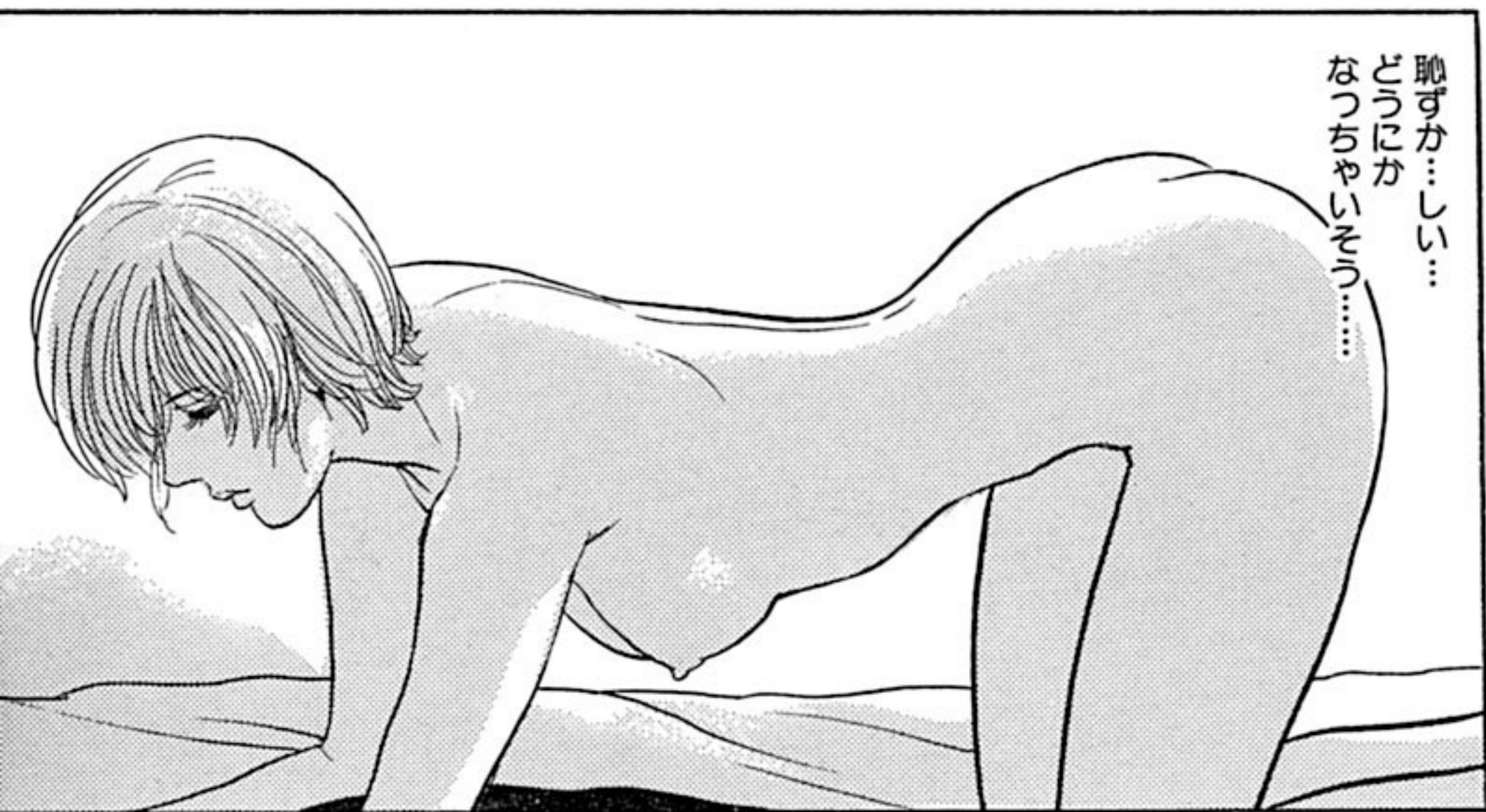
犬…だよ！



……え？



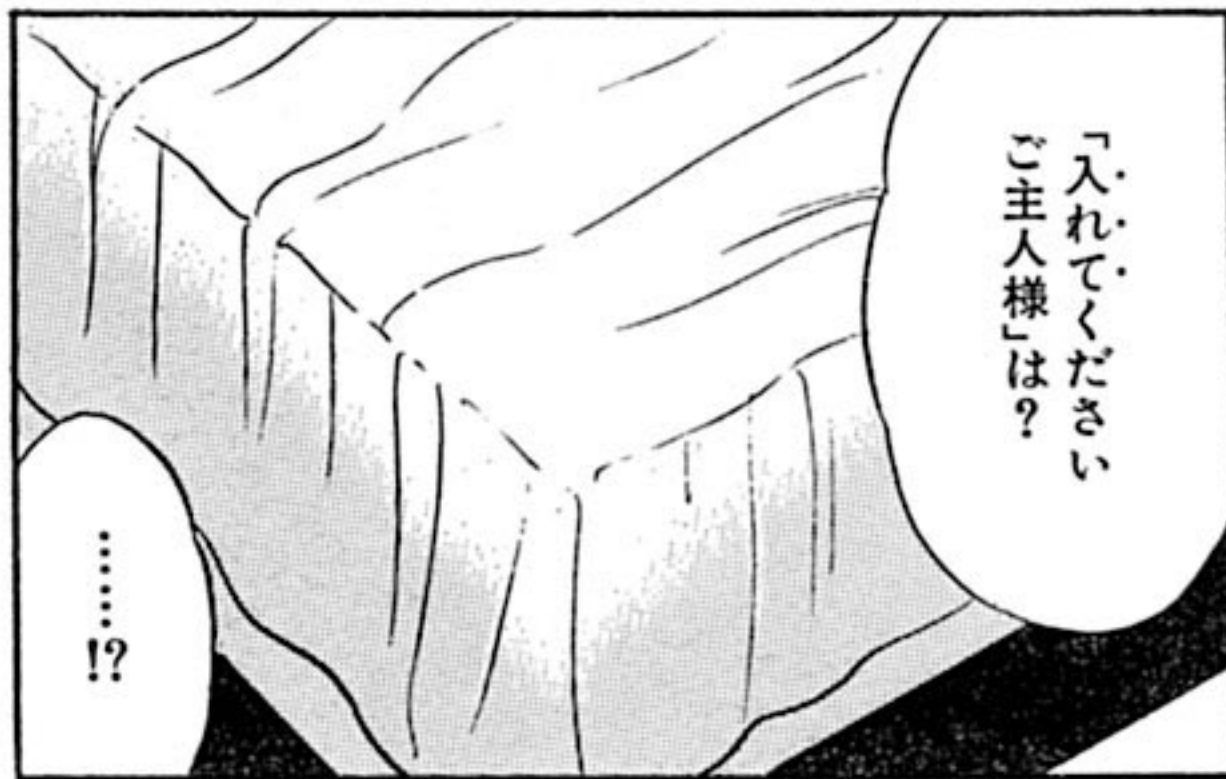
…犬に  
なるんだ



聴ずか…しい…  
どうにか  
なつちやいそつ…



…言うんだ！



「入れてください  
ご主人様」は？

……!?





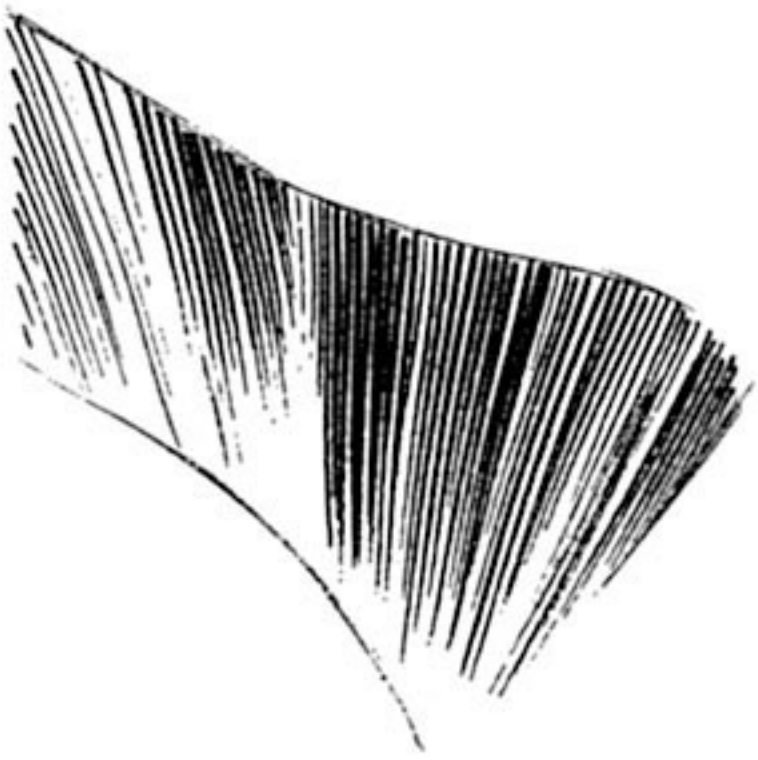
……ご主人様……!!



「ご主人様」は!?



…入…  
れて…  
ください…



瞬時——

いつもとは違う  
たぎりきつた篤志<sup>あつし</sup>が  
私を買いた…!!